

おきなわ花と食のフェスティバル2019

今年も「ていだサンサン 食べたらがんじゅう 沖縄産！」をキャッチフレーズに1月26日～27日、奥武山公園にて「おきなわ花と食のフェスティバル2019」が開催されました。

今回、沖縄県農林漁業賞の表彰では、うるま市の洋ラン生産者である新垣勝信氏が表彰を受けました。本賞は農林漁業の経営改善、技術の近代化および農林漁業生産集団の中から特に優秀なものを選定します。新垣さんは、国際洋ラン博覧会や花と食のフェスティバルに毎年出品、入賞し、指導農業士としても地域で活躍しています。

今回、園芸品目の各品評会にて中部地区から37名の方の農産物が入賞し、うち8名は特別賞を受賞しました。

花き品評会ではうるま市の與古田浩氏(小ぎく)が沖縄県農林水産部長賞、宜野湾市の天久学氏(観葉鉢物)が農業共済組合長理事賞を、中城村の新垣直也氏(トマト)が沖縄総合事務局農林水産部長賞を、中城村の与儀安信氏(島にんじん)が沖縄協同青果社長賞、沖縄市の程塚敦氏(さやいんげん)が農業共済組合長理事賞を受賞しました。また7月に開催されたマンゴーコンテストの表彰も行われ、うるま市の新垣智也氏が農林水産部長賞、沖縄市の仲村盛宏氏が農業協同組合代表理事賞、うるま市の高江篤史氏が新人賞を受賞しました。

また園芸拠点産地優良生産農家として、うるま市の赤嶺清志氏(果樹)が受賞されました。

昨年度よりも多くの方々の受賞があり、日頃の生産管理や病害虫防除に努力を重ねてきた結果が受賞につながったと思います。今回受賞された方々のますますのご活躍を期待し、中部地区の農業振興にご協力をお願いいたします。

おきなわ花と食のフェスティバル2019 中部地区入賞者

	名 前	市町村	品目名	品種名		
花き	沖縄県農林水産部長賞	與古田 浩	うるま市	小ぎく	太陽の南奈	
	沖縄県農業共済組合長理事賞	天久 学	宜野湾市	観葉鉢物	ユッカ	
	金賞	比嘉 健二	読谷村	小ぎく	太陽のいづみ	
		與古田 マサ子	うるま市	小ぎく	太陽の南奈	
	銀賞	高良 幸子	沖縄市	小ぎく	太陽のきらめき	
		高良 幸明	沖縄市	小ぎく	太陽のきらめき	
		金城 正雄	うるま市	小ぎく	太陽の南奈	
		與古田 光誠	うるま市	小ぎく	太陽のきらめき	
		長谷川 亜紀	沖縄市	スプレーギク	セイサバ	
		田場 竜太	沖縄市	ユリ	シグナム	
		長嶺 由勝	うるま市	ラン	ハニードロップ	
		山内 清英	読谷村	ドラセナ	エキソチカコンパクター	
	銅賞	大城 盛伴	北中城村	ドラセナ	レインボー	
		池城園芸	読谷村	観葉鉢物	ソングオブインディアーナ	
		新垣 忠夫	中城村	大ぎく	精興の秋	
		山内 正	読谷村	小ぎく	太陽のいづみ	
		上地 一樹	読谷村	小ぎく	精玉かずら	
		金城 孝	うるま市	小ぎく	太陽のきらめき	
仲宗根 昇		沖縄市	小ぎく	太陽のひかり		
屋宜 宣安		沖縄市	小ぎく	金秀		
久米 正夫		宜野湾市	小ぎく	春の美々		
小橋川 政人		読谷村	スプレーギク	マイキー・S		
野菜	山内 清英	読谷村	ドラセナ	ドラセナ(青)		
	比嘉 久賀	中城村	観葉鉢物	レナータ		
	内閣府沖縄総合事務局農林水産部長賞	新垣 直也	中城村	トマト	りんか	
	沖縄協同青果株式会社社長賞	与儀 安信	中城村	島にんじん	在来種	
	銀賞	沖縄県農業共済組合長理事賞	程塚 敦	沖縄市	さやいんげん(関西)	BN132P
		金城 得也	うるま市	さやいんげん(関東)	ケンタッキーブルー	
		高江洲 繁	沖縄市	食用菊	寿	
	銅賞	伊佐 貴雄	宜野湾市	田いも	沖田香	
		鱈波 ツル子	中城村	島だいこん	在来種	
		仲松 隆貴	中城村	セルリー	トップセラー	
仲松 芳子		中城村	島にんじん	在来種		
果樹	新垣 勝幸	西原町	キャベツ	はやどり		
	沖縄県農林水産部長賞	新垣 智也	うるま市	マンゴーコンテスト	マンゴー	
	沖縄県農業協同組合代表理事賞	仲村 盛宏	沖縄市			
新人賞(沖縄県果樹フェスティバル実行委員会会長賞)	高江 篤史	うるま市				
園芸拠点産地優良生産農家表彰	赤嶺 清志	うるま市	果樹	JAおきなわ石川支店園芸生産部会果樹部		

(農業技術班 座波 幸司)

なかがみ

第133号

編集と発行
中部農業改良普及センター
〒904-2155 沖縄県沖縄市美原1丁目6番34号
(沖縄県中部合同庁舎2階)
電話 098-894-6521
F A X 098-937-2502

地域農業振興総合指導事業(読谷村中部地区)の取組経過について

中部農業改良普及センター(以下「普及センター」という)では、読谷補助飛行場跡地(集団農業先進地域)にて、跡地の有効利用と農業振興を読谷村より委託された農業生産法人5社を重点指導対象として平成26年度より地域農業振興総合指導事業を実施しています。対象としている農業生産法人は旧地主を中心に集落単位で組織されており、営農の安定化が喫緊の課題となっています。

5月には農業生産法人5社の代表者、読谷村農業推進課、JA沖縄中央会、JAおきなわ(担い手サポートセンター、中部地区営農振興センター、ゆんた支店)総勢36名が参集し、同事業第1回推進会議を読谷村地域振興センターにて開催しました。普及センターより事業計画や関係機関から構成される総合指導チームの役割等について説明後、総合指導チーム内に設置した事務局、経営班、野菜・かんしょ班、花き班、果樹班の各分野における課題や今後の取組み等について活発な意見交換をおこないました。

現在普及センターが主体となって関係機関をとりまとめ、農業生産法人が営農を安定・効率的に行えるよう、様々な課題の解決に向けた取組みを展開中ですが、特に経営管理支援及び各園芸品目の作付計画作成支援や栽培技術指導、農業機械に適したにんじん栽培体系の推進、担い手リーダーの資質向上研修等を総合的に農業生産法人へ実施しています。これまで法人経営管理能力の向上、作付計画にもとづいた各園芸品目栽培管理の実施や栽培技術の向上、機械管理によるにんじん作業労力低減等の成果が上がりつつあります。

(普及企画班 上田 謙二郎)



事業推進会議



適正経営管理説明会



にんじん生産安定技術現地検討会



キク害虫防除対策現地検討会

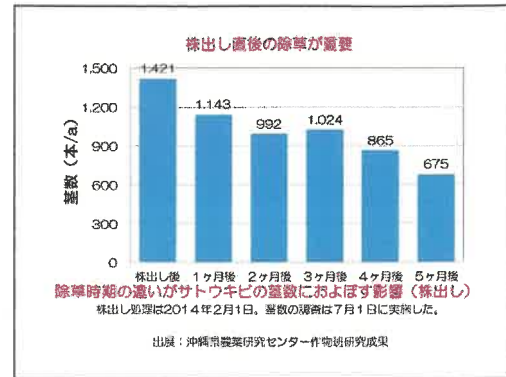


マンゴー一定例栽培講習会

さとうきび栽培のポイントは雑草対策

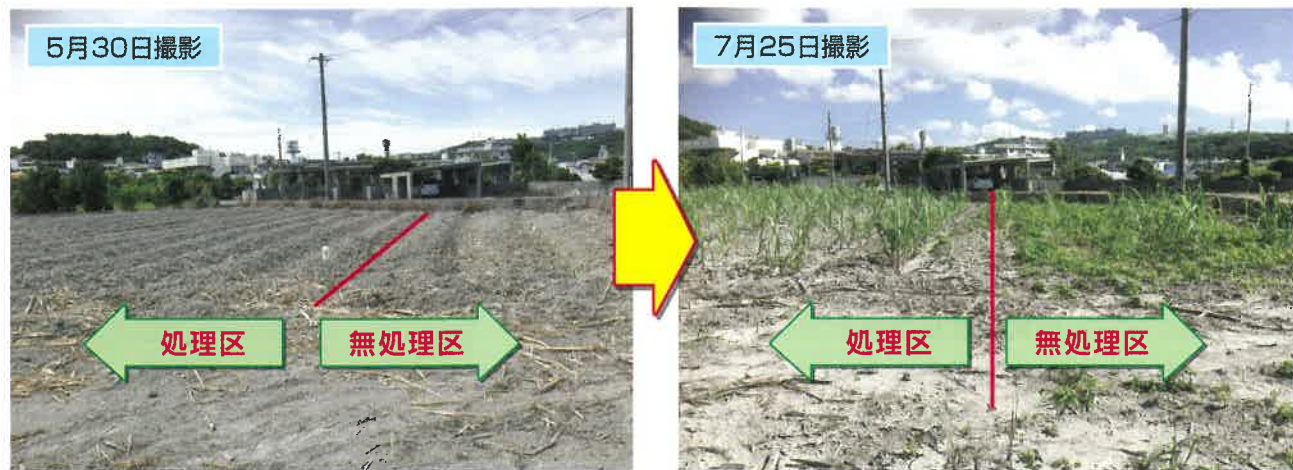
1 除草対策は早めの処理が効果的

除草処理時期が早ければ早いほど茎の本数が増加し、初期生育がよくなることがわかっています。除草剤には、雑草が生える前に土壌に処理し草の発生を予防する土壌処理剤と、雑草に直接散布する茎葉処理剤があります。土壌処理剤を上手に使うことで、除草にかかる労力や経費を抑えることができます。



2 平成30年度除草剤の効果確認実証展示圃を設置 (西原町)

ゆがふ製糖や JA と連携し、西原町で土壌処理型除草剤の効果確認実証展示圃を設置しました。使用薬剤：ダイロンゾル(DCMU 水和剤) 使用方法：植付5月19日 薬剤処理日：5月23日



3 土壌処理剤の上手な使い方

土壌処理剤は土壌表面にきれいに除草剤の膜を作るイメージで散布することで効果が上がります。

- ① 碎土を丁寧に行う。
- ② 圃場が乾燥しすぎている場合は、多めの水で規定量の薬剤を散布する。
- ③ 薬剤の膜を破らないよう転倒に気をつけ後ろ向きに散布。
- ④ 散布後圃場に入らない。

除草剤散布作業が簡単に行えるよう中部さとうきび協議会が導入したブームスプレイヤーが各地区に配備されています。

※ 農薬のラベルを確認し、風等に注意して適切に散布しましょう。



(農業技術班 川之上 昭彦)

冬春期の施設栽培におけるハウス管理について (主に果菜類)

12月から2月にかけて沖縄県では最も気温の低い時期になります。施設内の環境条件が悪いと葉および果実に様々な障害や病気が発生し、その後の生育・収量に影響をおよぼします。

表1. 沖縄県内施設で確認された低温によると思われる障害

品目	サヤインゲン	ゴーヤー	ゴーヤー
施設	パイプハウス	パイプハウス	硬質フィルムハウス
規模	6×20m	6×20m	10×39m
施設内瞬間最低気温 (観測日時)	5.8℃ (H28年1月25日 AM1:30)	5.4℃ (H28年1月25日 AM1:35)	7.2℃ (H28年1月25日 AM6:00)



- これらの障害を減らす対策として、
- 内張カーテン(写真1)を設置し、冷たい空気が直接ハウスに入らないようにしましょう。
 - 出入口やすそビニールの隙間、破けたビニールを補修し、ハウスの保温効果を高めましょう。
 - (冬春期におけるハウス換気の手順)を参考に、夕方16:00までには側窓を閉め、昼間ハウス内で暖められた気温を逃さず効果的な保温に努めましょう。



(農業技術班 崎山 澄寿)

マンゴーの害虫診断&適期防除のススメ

「害虫は発生初期に防除！」が原則です。マンゴーによく発生する害虫における初期防除のタイミングは以下(「被害前の発見ポイント」で防除推奨)の通りです。

(1) アザミウマ類(新梢育成時期)

被害前の発見ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
粘着トラップや虫見板を用いて予察しましょう。	新葉がカマボコ型に反り始めた状態。	葉脈の褐変や葉の巻きが見られる状態。

(2) アザミウマ類(出蕾・開花・着果時期)




被害前の発見ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
虫見板を用いて、発生予察を行いましょう。	混合花の葉芽がカマボコ型に反った状態。	花軸が褐変した状態。この後子房や小果も加害されます。

(3) マンゴーハフクレタマバエ

被害前の発見ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
これまでに被害があった場合は、新芽が出たら発生を警戒しましょう。	新葉を光に透かすと、幼虫が食害した部分が水浸状に明るく見えます。	葉がデコボコになり、穴(ショットホール)が開いた状態。



(4) ドクガ類

被害前の発見ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
卵を見つけたら、ふ化する前につぶしましょう。	幼虫が小さいうちに防除しましょう。	大きくなった幼虫は、農薬が効きにくく、被害も甚大です。

(5) マンゴーキジラミ

被害前の発見ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
成虫は産卵のため新葉に集まります。	幼虫を見つけたら防除が必要です。	すす病が発生した状態。光合成が阻害されます。

(6) ハダニ類

被害前の発見ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
葉を白紙で強く挟み、ハダニが潰れた跡を確認します。	白紙にハダニの跡がついた状態。防除が必要です。	葉の表面が退色し、白化した状態。

(7) チャノホコリダニ

被害前の予防ポイント	遅くともこの時点で防除	こうなる前に防除
		
夏秋季の新梢で本虫被害が見られた園地では予防が必要です。	蕾や小花が褐変したときは、ルーペ等で確認して下さい。	花軸が褐変し、カサカサになった状態。